

ハンガーゼロ・ニュース

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News 7

No.420 | 2025 |



Hunger Zero News 今月号の内容

チャイルドサポーター活動地報告
フィリピン2地区が支援終了 P.2-3

インドネシア活動地報告
貧困農家の生産性向上、母子支援 P.4-5

能登半島地震被災者支援/報告 P.6

スタッフブログ「巡回牧師」 P.7

写真：南アフリカの活動候補地で行われたビジョン・オブ・コミュニティ (VOC) 研修の参加者。地域の子どもたちのためにボランティアとしてで託児所を始める決心をしました。次号でジェロムスタッフが詳しく報告します。



マトノグ



スラ



FHフィリピン

マトノグとスラでの12年の歩み 希望を胸に、自立への道を歩む地域

2012年以来、ハンガーゼロはFHフィリピンと協力し、豊かな天然資源に恵まれながらも貧困と災害に苦しむ農村地区、マトノグとスラの人々と共に歩んできました。

マトノグの住民4,793人(1,175世帯)のほとんどは、農業、大工仕事、あるいは小規模な地域産業で生計を立てています。一方、1,500人(415世帯)が暮らす沿岸部の村スラは、洪水や高潮が頻繁に発生する非常に災害リスクの高い地域です。スラの家族は漁業、エビの養殖、季節的な観光業で収入を得ていますが、いずれも不安定で持続可能な生計手段に乏しい状況でした。このような環境下で、子どもたちは危険に晒され、親たちは無力感を抱き、長期的な状況改善への希望は遠いものに思われました。

この12年間、FHは子どもと家族に焦点を当てた支援を実施し、地域住民の能力向上に貢献してきました。学校施設を改善して安全な学習環境を整備し、親と若者への研修を通じてスキルアップを促しました。また、家族がより効率的に資源を管理できるよう貯蓄グループを導入しました。さらに、保健、栄養、そして防災への備えに関する取り組みは、より安全で情報に基づいた地域社会を育むことに繋がりました。その結果、今日、マトノグとスラの人々は、力強く、自信に満ち、希望を持って立ち上がっています。

活動の成果：子どもたちの学び

コロナ禍で多くの生徒、特に低学年の子どもたちの読解力と基本的な計算能力が低下しました。FHは2022年に学習支援者、教師、保護者の協力のもと、助けが必要な60人の生徒たちの支援を行いました。ほとんどの子どもたちの読解力が改善され、学習に対する自信を取り戻すことができました。



心の成長と地域の活性化

FHスタッフは10年以上にわたり地域の教会と協力し、子どもたちと家族の心の成長、人格形成、困難に打ち勝つ力、そして生活技能を育んできました。家族を定期的に訪問して祈り、励まし、希望を与え続けました。その結果、活発なボランティア活動が推進され、他の地域にも広がっています。マトノグの教会には毎月200人以上の子ども、若者、そして大人たちが集まるようになりました。



その中で子どもや若者たちは、さまざまな活動を通して多くのことを学んで、自分の意見を表明し健全な友情を築けるようになりました。お金の管理や自分自身を守る力が備わり、将来に希望が持てるようになりました。自分の価値を見出し、学ぶことの意義を認識できた結果、多くの若者がリーダーとして育ち、活躍しています。

マトノグに住むジャルダン一家は、父親はバイクタクシーの運転手で、母親はヤギの飼育プロジェクトに参加しています。FHの活動を通して両親は希望を抱くようになり、家族や子どもの教育についての考え方が変わりました。大学に通っている元支援チャイルドは、アルバイトをしながら学びを続けています。

若者の職業訓練と就職支援

2024年には、スラで学校に通っていない10人の若者が、FHの支援と地元政府からの補助金によって電気設備と工作機械のメンテナンス技術を習得し、8人が国家資格を取得しました。



チャイルドサポーターによる
子ども支援を終了しました



5月末でマトノグとスラのチャイルドサポーターによる子ども支援が終了しました。これまで長期にわたり子どもたちを応援して下さったチャイルドサポーターの皆さまに、スタッフ一同より感謝申し上げます。6月9日に行われた終了式典については、後日ニュースレターで報告させていただきます。



ハンガーゼロは今後、プロジェクト支援の形でFHフィリピンとの協力を継続していきます。

貯蓄がもたらす変化

2016年から貯蓄グループ活動が導入され、600人以上のメンバーが貯蓄を始めました。これらの



貯蓄は、子どもたちの教育費、家計の修繕費、そして中小企業の運転資金として活用され人々を助けています。

子ども向けの貯蓄グループ活動も始まり、子どもたちは両親に助けられながら財務管理やグループでの協力を学び、将来に役立つ貴重な技能を習得しています。

貯蓄グループのメンバーは口コミで増えていき、お金を貯める目的だけでなく、メンバー同士のつながりができました。また女性の能力開発にも大きく貢献しています。

新しい生計手段の確立

マトノグの7家族はヤギを受け取り、研修を受けてヤギの管理方法を習得し、持続可能なビジネスへと発展させました。



自宅でヤギの飼育を長年続けているリベラさんの家族は、次のように話します。

「ヤギ飼育の活動に参加できて本当に感謝しています。ヤギの管理を学び、友人もでき、共同のヤギの飼育を通じて副収入を得ました。今では、子どもたちに教育を受けさせ小さな事業を始めることができます。家も改築しています。」

地域を支える協働の力

この12年にわたる活動は、FHと共に献身的に歩んできた地域のボランティア、教会職員、学校のスタッフ、地区リーダー、そして地方自治体の職員の方々の



働きによって支えられてきました。地域の人々が、抱いてきたビジョンに向かって努力を続けてきたこと、そして何よりも活動を支えてくださった日本の皆様なしには、今日私たちが目にしている成果はなし得ませんでした。

真の変革は、決して一夜にして起こるものではなく、1人の力で成し遂げられるものでもありません。だからこそ、ハンガーゼロとFHフィリピンは、支援者の皆様が支えてくださった子どもたちとその家族と共に歩み続け、見守り、励まし、寄り添い続けてきました。

皆様の温かいご愛と尊い支援を心から感謝いたします。

(チャイルドサポーター事務局)

支援地域の
子どもを支援

チャイルドサポーター

月々4,000円

支援地域の特定の子どもとつながり、地域で行われる活動をご支援頂きます。サポートチャイルドと手紙による交流が可能です。

2つの支援の方法

Child Supporter
チャイルドサポーター



▶お申込み◀

支援地域の
環境を改善

フィールドサポーター

1,000円から

月々または自由なタイミングで支援できます。サポートチャイルドとの交流はありませんが、現地での活動の様子のレポートをお送りします。





FH インドネシア

ハンガーゼロは現地パートナーであるFHインドネシアと協力して、貧困に苦しむ農家の生産性が向上して収入が増え、家族の生活が安定するように農業をビジネスとする支援を行っています。また地域の母子の食育と地産地消による栄養改善に取り組んでいます。

貧困農家の生産性向上や母子の栄養改善

5期目となる2024年度は、①気候変動に配慮した方法を用いて農家グループの組織的な能力を向上させ、ビジネスとしての農業を強化する②地産地消を促進し、乳幼児の食についてのカウンセリングを提供する2つの取り組みを行いました。

3つの村から40名の農業研修生

前年に行った4期の活動では、ムンテイ、マイレペット、ムアラ・シブルットという3つの村の農家グループのメンバー40人（男性1人、女性39人）が農業センターで研修を受け、有機肥料、病害虫管理、気候変動に対応するための野菜栽培などを学び、それぞれの村のモデル農地でケール、インゲン豆、ほうれん草、とうもろこし、なすなどの野菜を育てました。収穫した作物は家庭で消費するだけでなく、地元の市場で販売しました。活動をする中で出てきた課題としては、洪水や干ばつによる作物へのダメージ、メンバー同士の協力不足、また女性がプロの農家として認知されていないという点が挙げられました。

その課題に対してシマエルクとシマブアイジェットの農家グループは、自分たちのプロとしての認知度を上げるために正式な組織として登録し、村に種や農具の支援を求めました。グループの収入向上のためにFHインドネシアは果物、野菜、花などの栽培の将来性について評価を行い、農産物の潜在的な購入者について調査しました。その結果、マイレペット村とムアラ・シブルット村では、ココナツ、バナナ、タロ芋、サゴ、野菜などの栽培に将来性があることがわかりました。調査の結果を基に農家グループは、市場の需要に合わせた農産物を作り、成長しつつあるメンタワイ島の観光市場に繋がっていかようとしています。

気候変動に対応した農業を学ぶ

農業センターでは研修施設の改修が行われ、研修センターや有機農業の試験場として活用されて、センターの運営費を捻出するために販売している農産物の生産量も上がってきています。更に気候変動に対応した農業の紹介、学生組織の活動、学校農園などの取り組みを通して、中高生が気候変動に対応するための基礎知識を身につけることにも、農業センターは重要な役割を果たしています。



農業センターでの病害虫管理研修



農業センターで学ぶ若者たち

貯蓄グループからの発展目指す

各貯蓄グループは、メンバーが貸付を受けて農業ビジネスを始めることを勧めています。その中で、貯蓄グループ協会を形成して情報共有と学びあいを促進し、アマル・セジャテラ・マンディリ組合への訪問を実施しました。(写真)この訪問によって貯蓄グループの代表者たちが、貯蓄グループから組合に規模を大きくすることで、行政の規則や基準に沿った社会的・経済的な影響を生み出すことができるという思いを持つことができました。



●今後の計画にワクワクしています

訪問に参加した代表の一人は、「FHインドネシアの助言と指導のおかげで、私たちのグループは帳簿をより上手に、きちんとつけることができるようになりました。より幅広い共同事業を行っていくという計画にワクワクしています。アマル・セジャテラ・マンディリ組合を訪問させてくださりありがとうございました。協働事業を行うためには、信用、誠実さ、計算力が必要だということを学ぶことができ、私たちにとっては貴重な経験でした」と語っています。



「栄養ポスト」の取り組み

地域の人々は米やインスタント麺などの輸入食物に頼っている家庭が多く、インゲン豆、タロ芋、野菜、魚類などは地元で入手可能でありながら、十分に活用されていないことがわかりました。栄養ポストの活動では、妊婦・授乳中の女性が健康についてのカウンセリングを受け、栄養不良の子ども20人が、農家グループが育てたケールや卵、ほうれん



健康チェックを受ける妊婦

草など栄養価の高い地産食品の提供を受けました。家族全員の栄養状態を改善するために対象グループは、料理教室を通して栄養について学び、地元の農産物を使った料理を習っています。対象グループの中には家事や生計のために参加できない人もいたため、訓練を受けた保健ボランティアが家庭を訪問して伝えています。

●保健ボランティアの能力が強化

ムンテイ村の書記官は「FHインドネシアは、大変よく協力してくださり感謝しています。この村では初めての試みである栄養ポストの活動によって、保健ボランティアの能力が強化されました。将来的には、栄養ポストの機能を総合保健ポストへと発展させたいと思っています。FHインドネシアが引き



写真④保険ボランティアの集まり ⑤研修を受ける地域の医療従事者



続き、総合保健ポストの地域ボランティアたちをサポートしてくれることを願っています。」と語っており、それぞれの村の政府もコミュニティも、栄養不良と発育阻害の改善のため栄養ポストの取り組みを評価しています。今後は、村の予算をつけて栄養ポストの活動を持続可能なものにするための働きかけを行い、データ収集と保健ボランティアの能力強化を行っていく予定です。

この活動は「ハンガーゼロサポーター支援」と「世界食料デー募金」によって支えられています。皆様のご協力感謝いたします。



備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索

ハンガーゼロニュース3月号で紹介したカリスチャペル神路（大阪市内）の能登半島地震被災者支援活動が、6月3日と4日に輪島市門前町など3カ所で行われました。活動は、被災直後から支援を継続している能登復興支援センター（羽咋市に活動拠点）との共催で実施。ハンガーゼロから応援で派遣した申スタッフ（災害支援部）の報告です。



カリスチャペルの梁牧師（中央男性）は教会で介護福祉事業をされています。（写真は門前での活動）

支援継続の中で被災者との信頼関係が育まれています

6月2日の午後、カリスチャペル神路の梁牧師と教会の皆さんと車で石川県羽咋市にある能登復興支援センター（宿泊先）に到着、すぐに翌日の門前町の公民館と仮設住宅で行う炊き出し（冷麺）の準備に取りかかりました。到着したのが夕方だったこともあり、下準備は深夜までかかりましたが、教会員の皆さんと楽しく会話をしながら進めることができました。皆さんの中には、4月の訪問で「キムチ作り教室」に参加された方もおられました。



炊き出し準備の申スタッフ

6月3日※ 軽い運動と韓国冷麺の炊き出し

輪島市門前町にある七浦公民館と同門前町の道下第二仮設住宅で午前と午後に分けて「健康レクリエーションと炊き出し&ミニコンサート」が行われました。どちらもたくさんの方々に来られ、体を動かす室内レクリエーションを楽しまれました。また炊き出しで用意した韓国冷麺をととても喜ばれ、ボランティアとの交流だけでなく被災された方々同士の会話も弾みました。食後の演歌歌手のミニコンサートも大好評でした。

共催の能登復興支援センターの趙牧師によると近隣地



皆さんから「韓国冷麺は美味しいね」と喜ばれました

高知ペンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ



大川内科

循環器内科・内科・老年内科

院長 大川 真理

区におられる被災者さんから「私たちのところにも教会のような場所があればいいのに」との声を聞くとのことです。地震発生から1年半が過ぎる中で支援活動を通じて被災者との信頼関係が生まれた結果、そうした声も出てきているようです。

なお能登復興支援センターは、現在の羽咋市から門前町大泊に活動拠点を9月にも移す準備を進めています。

6月4日※ パン缶+お米の配布も好評

午前には輪島市町野支所でも前日と同じプログラムが行われました。同所は、4月に森祐理ハンガーゼロ親善大使によるコンサートがあったこともあり、「あの時とても励まされました」と声をかけてくださる方もおられました。感謝です。

楽しいゲームなどで体を動かし、冷麺とミニコンサートでくつろいでいただいた後、帰りがけに「パンの缶詰」（パン・アキモト協力）とお米5kgをお配りしました。米は「いま値段がとても高いので助かります」と皆さんに大変喜ばれました。

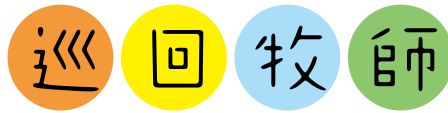
カリスチャペル神路によるボランティア支援はとりあえず一区切りとなりますが、今後も機会をつかって「能登の皆さんを忘れない」（梁牧師）支援をしていかれる予定です。



森祐理さんのラジオ番組にスタッフ出演



ハンガーゼロ親善大使の森祐理さんがパーソナリティを務めるラジオ番組「モリユリのこころのメロディ」（ラジオ関西／毎週木曜日夜9時30分～10時放送）、6月19日（木）と同26日（木）の放送でハンガーゼロ鶴浦スタッフが出演し、能登の活動を報告。森祐理さんの公式ホームページで録音放送を聞くことができます。「モリユリ」で検索。

ハンガーゼロ
で働く！ハンガーゼロ
Hunger Zero

ハンガーゼロには「巡回牧師」が4名在籍しています。これらの牧師は全国の支援団体であるキリスト教会の定期訪問、世界食料デー大会やチャリティ催事などでの講演、また教育機関（幼児から大学生まで）での出前授業の講師を務めています。教会訪問の際にはご支援への感謝をお伝えし、礼拝の説教奉仕をさせて頂いたり、飢餓問題の現状や支援地におけるハンガーゼロの取り組みを報告したりしています。また飢餓・貧困問題の解決のために「わたしから始める」にはどうすれば良いか共に考え、具体的な行動につなげていくために皆さまにチャレンジをしています。

巡回担当者の申、高橋、佐味スタッフから訪問活動を通じて生まれた出会いや気づきなどをご報告します。

「飢餓のことや活動について聞きたい」とのご要望があれば喜んで行かせていただきます！ご連絡ください。



巡回牧師（大阪）

申スタッフ

Child Supporter
チャイルドサポーター

巡回牧師（東京）

高橋スタッフ



巡回牧師（愛知）

佐味スタッフ

世界から飢餓がなくなるまで

「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」（聖書）

私は2005年から今まで日本各地の教会訪問をして、貧困で苦しむ人たちの現状をお知らせし、ハンガーゼロにご協力いただけるようお願いしてきました。東日本大震災の時からコング民主共和国から来たジェロムスタッフと巡回しています。

この働きを通してたくさんの方々に会うことができたのは恵みです。その中で貴重な生活費を精一杯ささげてくださったホームレスの方がおられました。感動と感謝で涙が出ました。

私もハンガーゼロのために精一杯働いていこうと改めて思いました。また各地で協力者、支援者が与えられて、毎年、食料デー大会や礼拝を開催できることを感謝します。

ハンガーゼロはみなさまのお祈りとご支援、そして私たちが心を一つにする時、よい働きをすることができます。この世界から飢餓がなくなるまで、飢餓問題と神様の愛を伝えて行きたいです。

ハンガーをゼロにするの…

日頃教会を訪問する時、私はいつも「今日はどんな出会いがあるのかな」とわくわくしています。先日、訪問時に名刺を渡すと「あ、ハンガーさんね」と親しみを込めて言ってくれました。そう言っていただけるほどにハンガーゼロが受け入れられているんだな、と心から感謝しました。

ある方から「ハンガーをゼロにするんですか」という質問を受けたことがあります。内心、私はチャンス！と思いました。なぜなら「ハンガーをゼロにする」ということ、つまりハンガーゼロの働きについて詳しく説明することができるからです。時にはご不在でお会いできない場合もあります。とても残念ですが、ポストに入れたハンガーゼロの資料をご覧になり、礼拝でのメッセージに呼んでくださるといふこともあります。毎回の出会いを大切に、ハンガーをゼロにする働きをお伝えしていけたらと願います。

みんなの「居場所」で

飛騨高山といえば山深い豪雪地帯で、観光以外ではあまり足を踏み入れることのない場所ですが、そのようなところにも教会はありました！この地域に130年前にノルウェーから宣教師が徒歩で入り、古川、神岡、高山の3教会を開拓したようです。その教会が今もしっかりと息づき存在しています。

特に古川キリスト教会は7年前から子ども食堂を始め、地域に開かれた全人的な宣教を目指しています。訪問した日はちょうど月に1度の子ども食堂の日で、雨にも関わらず多くの親子連れでにぎわい、楽しそうに食事や会話を楽しんでいた。そこは単なる食事の場所ではなく、みんなの「居場所」になっているようです。教会の先生方はみな40代ぐらいの若く子沢山のご家庭で、地方の教会がさびれていく否定的なニュースが多い中、希望を感じる教会でした。ハンガーゼロにも献金を持続的にしてくださっていて、チャイルドサポーターや世界食料デーの取り組みも紹介させていただき感謝でした。

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「ここから始まる飢餓」に応える活動をしています。



南インドのオーガニック茶葉 フレーバーティーセット

税込2,300円/全国送料無料

【お申込み】

ウェブでのご注文
QRコードから▶
www.kingdombusiness.jp

電話注文 / お問い合わせ:

080-9126-7701

(株)キングダムビジネス

横浜事務所 代表: 水野行生



前回大好評だったセットに種類を少し変えてラベンダーローズマリーティー、グリーンカモミールティー、グリーンジャスミンティー、トゥルーシースペアミントリコリスティー2g×10包各1パッケージ4袋にまとめました。カフェインフリーではありません。



近藤常務理事が緊急手術

近藤常務理事は5月末のアフリカ・ザンビアでの国際会議に出張中に急病となり、南アフリカで緊急手術を受けました。幸い手術は成功し、回復に向かっております。国内外の多くの皆様からの励ましとお祈りを心より感謝を申し上げます。スタッフ一同。

ハンガーゼロ海外駐在員短信

●小西小百合(ボリビア)

現地で活動が続いています。

●王楠穎(ウクライナ)

現地で活動が続いています。

●ジェロム・カセバ(コンゴ民主)

6月14日にアフリカから帰国。

切手・書き損じはがきを提供して下さる皆さまへ
～大切なお知らせ～

切手や書き損じはがきを提供して下さった皆さまには、感謝のはがきをお送りしてまいりましたが、今後はご希望の方のみにさせていただきます。ご希望の方は、お手数ですが、提供の際にその旨を一筆添えてくださいますようお願いいたします。

また、諸事情により**使用済み切手の回収は終了**(未使用切手は回収継続)させていただきました。

今後とも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。(大阪事務所)

あなたの祝福を分かち合いませんか
Giving Back
わたしから始める…愛の恩返し

遺贈寄付

顧問弁護士が無償でご相談等お手伝いします

Zoom無料セミナー 次回は2025年7月11日
「参加希望者」は jifhtokyo@gmail.com メールまたは電話で

Hunger Zero
東京事務所 TEL.03-3518-0781

詳しくは電話でご説明しますのでご連絡をお待ちしています

専門講師(弁護士)による出張個別相談もできます

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

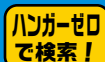
ふりがな氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL420号
☒	下記から希望されるものをお申し込みください
☐	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円(1000円) ②一時募金として 円協力します。
☐	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円(500円)
☐	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
☐	郵便自動引落し申込書を送って下さい。
☐	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして、必要事項を記入の上、FAX又は郵送にて大阪事務所までお送りください。確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

ハンガーゼロサポーター 現在... **5297**口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
 - ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



●Vポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,827,548ポイント(円)のご協力(26,661件)がありました。

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1

(広島/沖縄) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155

東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室

(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782

愛知 〒460-0004 名古屋市中央区新栄町 2-3 YWCAビル6F

TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132

USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa

TEL (510)568-4939

jifh.ainote@gmail.com

HP <https://ainote.org>

アメリカ合衆国の方はHP又QRからお申込下さい。クレジット決済が可能になりました。



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。